

第5学年外国語活動指導案

日時：平成24年9月28日（金）3校時

学級：男子9名 女子9名 計18名

授業者：T1 橋戸孝行 T2 グレゴリー・ハフリン

- 1 単元名 「What do you want? ～ようこそ普代ショップへ～」
(Hi friends! 1 Lesson 6 文部科学省 P22～25)

2 単元について

(1) 題材について

平成23年度から全国の公立小学校の5、6年において外国語活動が必修となった。学習指導要領によると、小学校外国語活動の目標は、外国語を通じて「コミュニケーション能力の素地を養う」ことである。この具現化のために、「言葉や文化について体験的に理解を深めること」「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること」「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること」が3つの柱として挙げられている。これらの柱の統合的な体験が中・高等学校等の外国語で目指すコミュニケーション能力を支えるものとして位置付けられている。

本単元は「What do you want?」というフレーズを中心に、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しませる活動を通して、アルファベットの大文字とその読み方とを一致させたり、身の回りにはアルファベットの大文字で表現されているものがあることに気付かせたりすることがねらいである。

学習においては、アルファベットの大文字とその読み方とを一致させ、欲しいものを尋ねる・答えるという活動を通して英語を聞いたり話したりして、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図っていく。本単元では、総合的な学習の時間との関連で自分たちが考えた「普代特産品」を販売するショップを開き、中学生に客となって学習に参加してもらい、相手の意向を尋ねる「What do you want?」という表現を活かして積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めていく。

(2) 児童について

これまでの学習で児童は、あいさつや気分をたずねるときの表現("Hello" "My name is～"), ジェスチャーや感情・様子を表す表現("How are you." "I'm happy."), 数をたずねる表現("How many～?"), 好き嫌い表す表現("Do you like～?" "I like～." "I don't like～."), 何が好きかを尋ねる表現("What do you like～?")等を学習してきている。これらの学習過程においては、果物、食べ物、飲み物、スポーツ、生き物、文房具などの名称を覚え、英語で話せる単語の数を増やしてきている。また、"What"や"like"など、会話の中に使われる言葉から何を聞かれているのか理解し、単語での返答ではあるが、聞かれていることに対して積極的に答えようとする姿が見られる。

外国の言語や文化について体験的に理解を深めることについては、ALTが世界地図を使って外国当てクイズを行ったりその国のジェスチャーの様子を紹介したりしてきた。また、各国のジャンケンなど、児童が日本と外国の違いや言葉のおもしろさを知る機会を計画的に位置付けてきた。そのため、いろいろな国の文化の違いについて興味や関心を高めているところである。英語以外にも外国の文化を適宜紹介しているALTとの学習を、児童はとても楽しみにしている。

HRTやALTからの質問には意欲的に答え、ビンゴゲームやカルタなど、学習と関連したアクティビティに対してはとても活発な児童ではあるが、友達と関わり合うインタビューゲームなどは積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲はまだ十分に高まっていない。楽しそうにインタビュー活動などは行うのだが、いつも特定の友達、または男子同士、女子同士と

1	<p>身の回りには様々なところにアルファベットの大文字が使われていることに気付くとともに、アルファベットの大文字とその読み方を知る。</p> <p>○「何を表しているか考えよう。」</p> <p>【P 1】誌面の絵からアルファベットの大文字を探す。</p> <p>【P 2】「ポインティングゲーム①②」</p> <p>【C 1】“Alphabet Chant”</p> <p>○「キーアルファベットゲーム」</p>		○		<p>・身の回りにはアルファベットの大文字が使われていることに気付いている。</p>	<p>行動観察・振り返りカード分析</p>
2	<p>アルファベットの大文字とその読み方とを一致させるとともに、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を知る。</p> <p>【C 1】“Alphabet Chant”</p> <p>【P 2】「ポインティングゲーム①③」</p> <p>○「何のアルファベット大文字かな？」</p> <p>【C 2】“What do you want?”</p> <p>【L】音声教材を聞いて、アルファベット大文字や数字を線で結ぶ。</p>		○		<p>・アルファベットの大文字とその読み方とを一致させている。</p>	<p>行動観察・振り返りカード点検</p>
3	<p>アルファベットの大文字とその読み方とを一致させるとともに、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。</p> <p>【C 1】“Alphabet Chant”</p> <p>【P 2】「ポインティングゲーム①④」</p> <p>○「チェーンゲーム その1」3文字のアルファベットを言って順に伝えていく。</p> <p>【C 2】“What do you want?”</p> <p>○「ラッキーカードゲーム」</p>		○		<p>・アルファベットの大文字とその読み方とを一致させている。</p> <p>・欲しいものを尋ねたり答えたりしている。</p>	<p>行動観察・振り返りカード点検</p>
4	<p>積極的にアルファベットの大文字を読もうとするとともに、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。</p> <p>【C 1】“Alphabet Chant”</p> <p>○「チェーンゲーム その2」3文字のアルファベットを言ったりカードを見せたりしながら順に伝えていく。</p> <p>【C 2】“What do you want?”</p> <p>【P 3】「カード集めゲーム」</p> <p>【A】身の回りから見つけたアルファベット大文字を表に書き写す。</p>		○		<p>・欲しいものを尋ねたり答えたりしている。</p> <p>・自らアルファベットの大文字を読んでいる。</p>	<p>行動観察・振り返りカード点検</p>

5 〈 本 時 〉	普代ショップを開き、中学生（客）に欲しいものを尋ねたり、商品を販売したりしようとする。 ○今まで学習した、ショッピングに使える表現を振り返る。 May I help you ~? How much? ~dollars Here you are. You are welcome	○	豊	・普代ショップを開き、お客さんに欲しい物を尋ね、「普代の特産品」を販売しようとしている。	行動観察・振り返りカード点検
-----------------------	--	---	---	--	----------------

5 本時の指導

(1) 目標

普代ショップを開き、お客さんに欲しい物を尋ねて「普代特産品」を販売しようとしている。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) 評価規準と手立て

	満足できる	「満足できる」に満たない児童への手立て
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	普代ショップを開き、お客さんに欲しい物を尋ねて「普代の特産品」を販売しようとしている。	「Hi friends 1」の22ページ～23ページのイラストを使いながら、児童にWhat do you want?の表現を想起させると共に、ALTやHRTが客となり、「普代の特産品」を販売できるように支援する。

(3) キャリアの視点

キャリアの力 : ◎総合生活力 ○豊かな人間性
 「異年齢集団の活動に進んで参加し、自分の役割を果たそうとする。」
 キャリアのねらい: 「普代ショップ」に中学生を招き、外国語を使って相手とコミュニケーションを図ろうとする。
 総合的な学習の時間で取り組んだ「普代の産業」の学習を基に自分たちが考えた「普代の特産品」を、普代ショップを開いて販売するという疑似体験を行う。中学生に英語で販売するという活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ることができるようにする。
 また、同じ普代に住む中学生と、特産品をキーワードとしてふるさとに対する思いや願いを発表し合えるようにする。

(4) 展開

過程	児童の活動	HRTの活動	ALTの活動	指導上の留意点 キャリアとの関連	評価
挨拶 3分	1 挨拶をする。 Hello. My name is ~. 3 How are you? I'm fine/sleepy/hungry.	・全体に挨拶をする。 ・名前や気分を尋ねたり答えたりする挨拶も教師間で提示する。 ・子どもたちと一緒に多くの子と挨拶をかわす。		○小、中学生で挨拶ができる時間を確保し、「気分」や「名前」を聞いたり答えたりする活動を積極的に行えるようにする。	
導入	2 学習の課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 普代ショップへようこそ！ ～中学生に特産品をはん売しよう～ </div> 3 重要な構文を知る。	・中学生が販売し	・写真を見てWhat	○中学生が普代物産を実際に販売しているニュース映像を提示し、本時の学習活動に対する関心を高める。 ○HRTとALTとのやりとり	

5分	What do you want? The ～, please.	た普代物産を黒板に掲示する。	do you want?と子どもたちに尋ねる。	から、小学生は普代の特産品を販売すること、中学生はそれを買うことを確認する。
12分	4 会話で使うフレーズの練習をする。 May I help you. Welcome. What do you want? ○○, please. Here you are. How much? ～dollars. Thank you.	・デモンストレーションで実際の買い物の場面を紹介し、会話に活かしたいフレーズを確認する。 H: May I help you. / Welcome. A: Hello. H: What do you want? A: ○○, please. H: Here you are. A: Thank you. How much? H: ~dollars. A: Here you are. H: Thank you. A: Bye.		○商品（特産品）を販売する人（小学生）と買う人（中学生）の役割で、センテンスの発音練習を行わせる。 ○「挨拶」→「何が欲しいか聞く」→「欲しい物を告げる」→「相手に渡す」→「金額を聞く」→「お礼を言う」→「挨拶」といった会話の流れを、掲示物として黒板に貼る。 ○急がず、ゆっくりでいいので相手に聞こえる声の大きさを話すことに留意させる。
20分	5 普代ショップで交流を図る。 【小学生】 ・机を配置したり商品を並べたりする。 ・商品の紹介文も机に貼って掲示する。 【中学生】 「普代マネー」を持って普代ショップで買い物をする。	・小学生のお店の準備の補助をする。 ・小学生の子どもたちが商品販売のために英語でコミュニケーションを図っているか観察し、適宜指導する。	・中学生に買い物に必要なお金を配付したり、買い物で使う表現の練習をする。 ・中学生と一緒に普代ショップで買い物をする。	○各班、商品を販売する児童が偏らないように留意する。 お客さんに欲しい物を尋ねて「普代特産品」を販売しようとしている。 ○子どもたちがWhat do you want?など、既習の表現を積極的に使っているかチェックし、評価に活かす。 「普代特産品」を販売するため、中学生と積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
5分	6 感想を交流しあう。 【小学生】 ・「普代特産品」を中学生に販売した感想を学習シートに記入する。 【中学生】 ・「普代ショップ」で買い物をした感想を学習シートに記入する。 7 挨拶をする。	・ALTのふるさとはどんな特産品があるかインタビューする。	・小学生の「普代ショップ」や特産品の買い物をした感想を発表する。 ・自分のふるさとの特産品を紹介する。	○振り返りカードには感想欄以外にも自己評価の欄も用意し、子どもたちが積極的にコミュニケーションを図ることができたかを振り返られるようにする。 普代の特産品に対する思いや願いを、中学生に対して発表することができる。

テレビニュースで紹介された、中学2年生の物産販売の様子（写真）

中学生が販売した物産の写真

Today's Goal

普代ショップへようこそ！
中学生に特産品をはん売しよう

ALTのふるさとの特産品の写真

～スムーズに会話が進むために～

【店の人】

【客】

あいさつ → あいさつ
何がほしいか？ → これがほしい
わたす（品物） → お礼 いくら？
いくらです → わたす（お金）
お礼 あいさつ → お礼 あいさつ